

# N E W S R E L E A S E

2013年11月15日  
コベルコ建機株式会社

## コベルコ建機 2013年9月中間期 決算概要

### 【2013年9月中間期の事業環境全般の概況と業績】

国内の建設機械市場は、大型補正予算の執行効果などから全国的に公共投資が増加し、レンタル業界向けを中心に伸張しました。その結果、油圧ショベルの国内上期総需要は、前年同期と比べ重機ショベルで4割弱、ミニショベルで1割強増加しました。

海外の建設機械市場（海外事業の上期対象時期は1-6月）は、北米を除き総じて低調に推移しました。世界最大の油圧ショベル市場である中国は、鉱山開発の停滞や住宅投機の抑制、大型公共工事の減少などで低迷する一方、農村部の水利工事や都市部の生活関連工事などでは底堅い需要も出てきました。その結果、ショベル需要は前年同期比で、重機ショベルで1割強減少、ミニショベルは微増となりました。景気低迷が継続し、最大需要期である春節明けの不振もあり、重機、ミニを合わせた全体の総需要は前年同期比1割減となりました。中国以外の市場を見てみますと、順調に景気が回復してきた米国市場でしたが重機ショベル、ミニショベルとも前年同期比で微増と回復傾向が鈍化しました。債務危機不安が一服した欧州は、下げ止まりつつあるものの低調に推移しました。東南アジアとインドは、鉱山開発の低迷など資源分野での落ち込みが大きく、油圧ショベル需要も低迷しました。その結果、重機ショベル需要は、東南アジアは前年同期比で3割弱、インドは前年同期比で2割強減少しました。

世界全体の総需要は、前年同期比で重機ショベルが1割強減少し、ミニショベルは微減となりました。

コベルコ建機グループは、2013年度から新たな中期経営計画をスタートさせました。中期経営計画のスローガンは『True Blue KOBELCO Evolution』。信頼できる、正直な KOBELCO がグローバルに進化・発展していく意味を込めています。事業の持続的かつ安定的な成長を目指しグループ一丸となって基本戦略を着々と推進してまいります。

昨年5月に本格稼働を開始した五日市工場は、順調に生産を軌道に乗せフル生産を続けてきました。ミニショベルを生産している大垣工場でも生産性向上に取り組みながら生産能力一杯の稼働を維持することが出来ました。顧客本位の観点から魅力ある品質向上を追求していくと共に、生産性向上に拍車をかけ、一段と効率的で顧客ニーズにタイムリーに 대응する供給体制の確立に取り組んでいます。また世界統一品質、『Made by KOBELCO』を追求してまいります。

事業別の状況は次頁以降に詳細を記載いたしますが、これらの結果、2013年9月中間期（2013年4月～2013年9月）の業績は、以下の通りとなりました。

<2013年9月中間期の実績>

{単位：百万円、（ ）内は前年同期比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連 結	2013年9月中間期	162,997 (+8.4%)	12,933 (+51.9%)	10,164 (+80.9%)	6,338 (+302.6%)
	2012年9月中間期	150,374	8,511	5,619	1,574

(小数点以下切捨)

連結の売上高は、国内事業が648億円（前年同期比+29.4%）、海外事業が981億円（同▲2.1%）で、全体としては1,629億円（同+8.4%）となりました。連結売上高の海外比率は、60.2%となり、前年同期（66.7%）より低下しました。

## 【2013年9月中間期の事業別状況】

### ■ 国内事業

国内では大型補正予算を背景にした公共投資が増大し全国的に需要が拡大しました。実際の工事が顕在化するにつれ設備投資マインドが改善され、北海道、東北、関東、中部、西日本、四国、九州など全域でレンタル業界向けを中心に需要は拡大しました。尚、東日本大震災の復興需要に関しては一部エリアで一服感が出ているものの引き続き高い水準を維持しました。国内の旺盛な需要に対応する為、昨年5月に本格稼働を開始した五日市工場と、生産効率化を推進中の大垣工場ではフル生産体制で需要の拡大に対応しました。また部品販売やサービス拠点強化などにも注力するなど、製販一体になってそれぞれの課題に取り組みました。その結果、国内での販売台数は、前年同期と比べ重機ショベルで3割強増加し、ミニショベルは前年同期比5%増加しました。

今後も、国内は重要な市場と位置づけ、顧客のニーズにタイムリーにお応え出来るような体制を整えていく予定です。

また、グループ全体の生産および開発の最適化を狙ったグローバルエンジニアリングセンター（以下：GEC）も本格的な活動を展開しています。国内生産現場での徹底した生産性向上活動と、原価低減（VE）活動を推進しながらコスト競争力を強化しています。それらの活動を通じて獲得した、ものづくりの成果、ものづくりのノウハウはGECを経由して海外の生産拠点にも展開してまいります。

### ■ 中国事業

中国では、景気鈍化の流れを受け、最大需要期である春節明けを挟む1月—3月の総需要が激減しました。特に重機ショベルの減少が大きく総需要は前年同期比4割弱減少しました。4月以降、前年同期比増加に転じ下げ止まり感が出てきましたが1月—3月の減少分を解消するには至りませんでした。コベルコ建機グループでは厳しい市場動向が続く中、きめ細かなサービスなどを継続しつつ、安易な価格政策とは一定の距離を置き、慎重な事業活動を展開いたしましたが、需要低迷が響き、今上期（1月-6月）の販売台数は、前年同期と比べ重機ショベルで2割弱減少し、ミニショベルは微減となりました。重機、ミニを合わせた中国の今期の総販売台数は、前年同期比1割強減少しました。

足下の状況に関しては、下期（7月—12月）に入っても前年同期比増加傾向が続いており、右肩上がりの需要好転とまでは言い切れないものの、徐々に回復しつつある状況となっています。

### ■ 欧米事業

10年ぶりに再進出した北米と欧州地域では、販売網の構築に注力しました。北米市場では北米現地法人 KCMU (Kobelco Construction Machinery U.S.A. Inc.) をテキサス州ヒューストンに開設。9月末の段階で50社を超える代理店と契約を結び、北米市場の90%以上をカバーする段階まで進捗しています。また欧州地域に関しても販売網の構築が順調に進み、9月末の段階で16社と代理店契約を結び年末までには20数社まで拡充する予定です。これらの状況から欧州現地法人 KCE (Kobelco Construction Machinery Europe B.V.) を当初予定よりも前倒しで6月に設立し、旧コベルコディーラーを核として販売網の整備を更に推進しています。

北米、欧州地域ともコベルコブランドに対する期待感が根強く、順調に販売台数を伸ばしており本年度は当初目標を上回る見込みになっています。欧米事業の早期立ち上げは順調に進展しており、来年度の更なる成長が期待されます。

### ■ APAC地域他 海外事業

APACエリアは全体的に低調に推移しました。鉱山比率の低いタイやシンガポールは底堅く推移しましたが、最大需要地であるインドネシアにおいては鉱山分野を中心に低調に推移しました。その結果、今上期（1月-6月）の東南アジア全体の重機ショベルの総需要は、前年同期比で3割弱減少し、当社の販売も1割弱減少しました。足下、インドを含むアジア圏の各国通貨が下落し、通貨防衛、インフレ抑制の為に金利上昇などもあって景気が低迷し、需要が縮小しています。従来継続的に新興国に流入してきた世界の投資マネーがどう動いていくか極めて不透明な状況にあり、更にもう一段のリセッションも予想され、予断を許さない状況になってきています。

## 【今後の重点課題と2013年度の見通し】

日本の市場は、国土強靱化計画や東京オリンピック投資への期待感もあり好調に推移すると想定していますが、世界全体の経済状況を俯瞰すると、回復基調にある先進国地域に対して、ここ数年順調に成長を続けてきた新興国に陰りがでてきています。またアメリカ金融の量的緩和縮小の動向如何では、新興国諸国だけでなく、先進国地域にも影響が出てくるものと考えられます。中国も下げ止まり感が出てきたものの、本格的な景気回復にまでは至っておらず、不透明な状況にあることから当社グループを取り巻く市場環境の先行きに関しては、楽観できない状況と考えています。

これらの厳しい視点にたち、コベルコ建機グループでは、経営体質の強化に取り組んでいくことが課題となります。当社は本年4月より、新しい中期経営計画をスタートさせました。①いかなる事業環境の変化にも追随できる強靱な事業体をつくる。②欧米への事業再参入を遂行し全世界でコベルコブランド価値を最大化させる。③生産性向上、低燃費などの差別化技術の深堀、部品事業拡大など、事業基盤の強化を進める。

中期経営計画で掲げたそれぞれの方針を着実に実行し、体質強化の成果をあげることに、更には海外の拠点にもその成果を広めていくことによってグループ全体を底上げしていくことが具体的な課題となります。これらの課題に取り組みながら、来るべき将来の上昇局面に備えていく考えです。

これらの状況を踏まえ、2013年通期の見通しは以下の通りと想定しています。

＜2013年度通期の見通し＞		{単位：百万円、（ ）内は前年度比}		
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期連結見通し	325,000 (+21.3%)	24,500 (+93.3%)	17,000 (+148.1%)	13,000 (+389.3%)
前期連結実績	267,821	12,675	6,852	2,657

(2013年度下期における為替レート前提： 1米ドル=100円、1ユーロ=125円)

\*上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。  
実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上

## 平成26年3月期 第2四半期決算業績概要

会社名	コベルコ建機株式会社	TEL: 03(5789)2111
代表者	代表取締役社長	藤岡 純
問合せ先責任者	取締役常務執行役員 企画管理部長	三木 健
親会社名	株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率: 96%)	
	神鋼商事株式会社 (当社株式の保有比率: 4%)	

## 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	162,997	8.4	12,933	51.9	10,164	80.9	6,338	302.6
25年3月期第2四半期	150,374	△16.5	8,511	△57.0	5,619	△69.7	1,574	△66.4

	1株当たり四半期純利益
	円 銭
26年3月期第2四半期	19 80
25年3月期第2四半期	4 91

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	427,133	89,704	14.5
25年3月期	403,469	70,626	12.8

## 2. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
連結(通期)	325,000	21.3	24,500	93.3	17,000	148.1	13,000	389.3

\*上記の予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであります。  
実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。